

## 8 学校アクションプラン

令和4年度 魚津高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒が主体的に参加できる授業への改善、家庭学習時間の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒個々の進路希望がかなうよう学力の向上を目指し、授業の充実を図ってきた。互見授業や公開授業、授業アンケートを実施し、授業力向上に取り組んでいるが、授業を含め学習に対して受け身の生徒の割合が高いように思われる。</li> <li>生徒には入学当初よりオリエンテーションなどを通して家庭学習の習慣を身につけさせる指導を行う。また、生徒の家庭学習時間や学習への意欲を把握し、面談や声かけによって、生徒一人ひとりにきめ細かな指導を行う。</li> </ul>	
達成目標	①授業力の向上 ア. 「授業に興味関心を持てる」と答える生徒の割合 イ. 互見授業に参加した回数が年間2回以上である教員の割合 ア・イともに80%以上	②1, 2年の1週間あたりの平均学習時間 ア. 平均学習時間 イ. 学習内容を理解するために自分なりに工夫している生徒の割合 ア. 1,500分/週 以上      イ. 70%以上
	互見授業、公開授業、生徒による授業評価を実施する。実施後は、授業方法について教科部会で協議し、生徒が自主的、主体的に「もっと学びたい」と意欲を持ち、「深い学び」へと繋がるよう工夫をする。	「生活実態調査」を実施し、担任が生徒の生活実態（予習→授業→復習のサイクルができているか）を把握し、効果的な面接指導を行う。 また、調査結果をもとに学年、各教科が共通認識を持って連携し、課題の出し方、取り寄せ方について工夫する。
達成度	ア. 生徒による授業評価（7月実施）の結果 <b>全学年81.4% (84.8)</b> 1学年76.2% (86.2) 2学年86.5% (81.7) 3学年85.6% (86.6) イ. 互見授業の参加数集計結果 2回以上参加した教員 <b>65.2% (77.7%)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活時間調査 年2回の平均</li> <li>ア. 1週間の平均学習時間(昨年度)<b>1178分 (1318分)</b>                1学年 1054分 (1334分)                2学年 1302分 (1302分)</li> <li>イ. 自分なりに工夫している生徒の割合 <b>72%</b>                1学年 72.0%                2学年 71.7%</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による授業評価では、「授業に興味関心を持てるか」と設問で「関心を持てる」と回答した生徒の割合が、昨年比で減っている。特に1学年では76%と目標を下回った。全体では81%の生徒が興味関心を持って授業に取り組んでいる。</li> <li>互見授業については、昨年より10%減少した。方策を考えていきたい。</li> <li>公開授業は6月の平日に実施したが保護者の参加は昨年より多かった。（保護者57名、昨年16名）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度と比べて学習時間が若干減少している。家庭学習時間が週あたり1500分以上の目標には1, 2年ともに達成できなかった。</li> <li>学習内容の理解について、自分なりに工夫している生徒の割合は、1, 2学年とも70%を上回った。工夫の内容についても面談等(担任、教科)で指導をすすめていきたい。</li> <li>新学習指導要領も踏まえ、学習の質の改善について具体的な方策(課題の与え方等)を各教科全体で考えていく必要がある</li> </ul>
評価	C	C
学校関係者の意見	ただ単に学習時間を目標にするのではなく、生徒の内的動機付けが必要である。進路学習との結びつき等考えてアプローチの仕方を工夫してほしい。	
次年度へ向けての課題	授業の質の改善(互見授業のあり方)と生徒の自主的学習活動についてさらに研修をすすめていきたい。面談では、学習に対して生徒の内面にせまるような声かけなどできるよう学校全体で研修をすすめる。	

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)

令和4年度 魚津高等学校アクションプラン — 2 —

重点項目	学校生活																																												
重点課題	18歳成人に向けた、学校生活における意識の向上																																												
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の生徒は、全体的に真面目かつ素直であり、自分で考えて判断し行動できる力がある。様々なアイデアを生み出したり、工夫を凝らしたり、修正を加えたりする能力を潜在的に持っている。しかし、実際には多くの日課をこなす中で思考が働かせづらくなり、自ら考え、目的意識を持って行動する機会が乏しくなりがちで、指示待ちの生徒が少なくない傾向にある。</li> <li>・精神的に未熟な面を持つ生徒が少数ではあるが存在し、他者や全体への配慮、ルールの遵守において、思考・判断・行動が十分でないケースが見受けられる。</li> </ul>																																												
達成目標	<p>成人年齢の引き下げに伴い、</p> <p>①責任ある行動、自覚を高める意識を育む機会を設ける。</p> <p>②1年間の学校生活の中で「適切な思考・判断・行動ができた」と感じる生徒を増やしていく。</p>																																												
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会、生活委員会を中心に、鍵かけ（自転車、ロッカー等）運動やあいさつ運動を行い、自分の役割や立場を再認識させると共に、学校という共同体の中で目的意識を持って他者と協力することの大切さを考えさせる。</li> <li>・統一HRにおいて、自己と他者との「人権」や、様々な価値観や多様性を受け入れることの大切さを考えさせる。</li> <li>・始業式や終業式、学年集会等を通じて、「服装・頭髪・携帯電話・遅刻・駐輪」等、学校生活におけるルールやマナーを守ることの理由や意義について考えさせる。</li> <li>・交通安全教室、防犯教室、薬物乱用防止教室の実施やHR活動で「スマホのルール作り」を行い、「交通規則・SNS」等に関する法律（社会規範）を守ることの理由や意義について考えさせる。</li> <li>・年に2度、自己評価を実施し、(1)共同体（学校）における人間関係、(2)人権（いじめ）、(3)学校生活のルール、(4)法律（社会規範）の4つの観点について、生徒一人ひとりの意識の改善・継続・向上を図る。</li> <li>・PTA総会や各学期の保護者会等で、アクションプランの重点課題と達成目標について理解を求め、家庭と学校が連携する体制を整える。</li> </ul>																																												
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第2回 自己評価」で「できた+概ねできた」と回答した生徒と、「第1回 自己評価」との増減</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>全学年</td> <td>【89%回答】</td> <td>-1%</td> <td>(1)97%</td> <td>+2%</td> <td>(2)99%</td> <td>+0%</td> <td>(3)97%</td> <td>+0%</td> <td>(4)99%</td> <td>+0%</td> </tr> <tr> <td>1学年</td> <td>【93%回答】</td> <td>+3%</td> <td>(1)97%</td> <td>+1%</td> <td>(2)99%</td> <td>+0%</td> <td>(3)97%</td> <td>+0%</td> <td>(4)99%</td> <td>-1%</td> </tr> <tr> <td>2学年</td> <td>【86%回答】</td> <td>+3%</td> <td>(1)97%</td> <td>+3%</td> <td>(2)99%</td> <td>+0%</td> <td>(3)99%</td> <td>+3%</td> <td>(4)99%</td> <td>+2%</td> </tr> <tr> <td>3学年</td> <td>【88%回答】</td> <td>-8%</td> <td>(1)96%</td> <td>+1%</td> <td>(2)99%</td> <td>+0%</td> <td>(3)96%</td> <td>-3%</td> <td>(4)100%</td> <td>+1%</td> </tr> </table> <p>全学年における1年間を通しての成長の自己評価は、「できた」が61%、「概ねできた」が35%</p>	全学年	【89%回答】	-1%	(1)97%	+2%	(2)99%	+0%	(3)97%	+0%	(4)99%	+0%	1学年	【93%回答】	+3%	(1)97%	+1%	(2)99%	+0%	(3)97%	+0%	(4)99%	-1%	2学年	【86%回答】	+3%	(1)97%	+3%	(2)99%	+0%	(3)99%	+3%	(4)99%	+2%	3学年	【88%回答】	-8%	(1)96%	+1%	(2)99%	+0%	(3)96%	-3%	(4)100%	+1%
全学年	【89%回答】	-1%	(1)97%	+2%	(2)99%	+0%	(3)97%	+0%	(4)99%	+0%																																			
1学年	【93%回答】	+3%	(1)97%	+1%	(2)99%	+0%	(3)97%	+0%	(4)99%	-1%																																			
2学年	【86%回答】	+3%	(1)97%	+3%	(2)99%	+0%	(3)99%	+3%	(4)99%	+2%																																			
3学年	【88%回答】	-8%	(1)96%	+1%	(2)99%	+0%	(3)96%	-3%	(4)100%	+1%																																			
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年(4月末)、2学年(5月中旬)、3学年(4月中旬)が、HRで生活委員が中心となってスマホやクラスのルール作りを行った。クラス掲示や見直しをするなどして、意識を高めた。</li> <li>・1年生を対象に、「交通安全・非行防止教室」(4月上旬)、「薬物乱用防止教室」(7月初旬)を、魚津署から講師を招いて実施した。</li> <li>・全学年を対象に、1回目(8月)の「自己評価」を実施した。結果は予想以上に高かった。</li> <li>・全学年を対象に、「あいさつ・鍵かけ運動」(9月上旬)を実施した。生活委員が中心となって作成した標語を掲げた「のぼり旗」の作成や標語入りの「ティッシュ」も配布した。また、放送などによって、全生徒の意識を高めるための活動を行った。</li> <li>・10月中旬の学年別保護者会で、「魚津高校での『高校生活の質』を向上させていくために」設定した目標を記した資料を配付し、保護者に対し、主旨の理解と協力を依頼した。</li> </ul>																																												
評価	B																																												
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・18歳成人のためにということであるなら、消費者教育も必要ではないか。18歳成人としての意欲や目的意識、規範精神を身につけて欲しい。アンケートは、正確な情報が得られる5択にすべき。</li> </ul>																																												
次年度へ向けての課題	<p>生徒の規範意識、特に帰属意識を高め、学校やクラス全体を俯瞰する視点を持たせ、全体を意識した行動を行わせたい。また、スマホ・ルールやクラス・ルールの振り返りや改定を行い、その改定されたルールを常に念頭に置いて行動するようにさせたい。</p>																																												

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人一人が自己のあり方、生き方を考え、学習意欲を高める指導	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全般的に進学に対する意識は高いが、大学進学目的や将来のビジョンが明確でなく、そのために具体的な進路目標の設定が遅い生徒が見受けられる。</li> <li>・生徒自身が自己の能力・適性を深く考えて進路目標を設定しているとはいえない面があり、漠然とした進路目標のため、自主的・意欲的な学習に結びついていない生徒がいる。</li> <li>・9割以上の生徒が国公立大学に進学を希望している。</li> </ul>	
達成目標	①進路指導支援全般と3年時の個別試験対策支援の満足度、充実度 (志望大学・学部・学科・将来の職業等の設定)	②国公立大学合格率 (国公立大学合格者数/国公立大学出願者数)
	卒業時の満足感、充実感を高める	合格率 75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導を基本とし、自学自習の力を養成する。</li> <li>・3年間を見通した進路指導計画を作成し実施する。</li> <li>・学習状況の把握を目的とした教科担当者を交えた学年検討会を開き、共通意識を持って学年及び全教師集団による指導を行う。</li> <li>・「進路探究」や「生徒希望選択研修」などを通して進路を考えさせる。</li> <li>・進路講演会や進路情報提供を充実させ、意欲的に学習に取り組ませる。</li> <li>・面接指導を通して、生徒理解を深めるとともに信頼関係を構築し、早期に進路目標を設定させることで学習意欲を高め、学習習慣を確立させる。</li> </ul>	
達成度	満足感、充実感は概ね高い。	合格率 74.5% (=102/139)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの進路をより具体的に考えるきっかけとして進路講演会(1学年1回、2学年1回、3学年1回)を実施した。事後アンケートの結果として90%の生徒が「進路選択の参考になった」と答えている。</li> <li>・1学年全員で、8月に富山大学訪問を実施し、97%の生徒が大学について理解できたと答えている。</li> <li>・進路探究(1学年)では、全体会を含め8分科会を実施し、95%の生徒が「大変参考になった」「参考になった」と答えている。</li> <li>・一人ひとりの進路希望に合わせた個別試験対策として各教科で添削指導を行った。86%の生徒が「大変役に立った」または「役に立った」と答えている。</li> <li>・面接回数は88%の生徒が適切と回答。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標の設定、学習習慣の確立に向けて、面接期間などを設定し、学級担任による個別面接指導を実施した。</li> <li>・各学年で、生徒の実態に応じた朝学習を計画的に実施した。</li> <li>・学習状況、進路志望状況の共有を図るため教科担当者を交えた拡大学年会議(1、2学年)を各1回および進路検討会(3学年)を3回実施した。</li> <li>・「進路のしおり」(1～3学年)、「受験のしおり」(3学年)を作成して、本校生徒の実態に即した進路指導を行った。</li> <li>・土曜補充授業を1、2学年各5回、3学年4回実施した。</li> <li>・「先輩に学ぶ会」、「合格者に学ぶ会」等を企画実施して、生徒の進路意識を高めた。</li> </ul>
評価	B	B
学校関係者の意見	国公立大学への進学も大切であるが多面的な生徒の把握をしてもらいたい。地域の方たちも魚津高校に関心を持ち期待をしている。今後も魚津高校としてのぶれない方針を大切に、母校に愛着と誇りを持ち、地域の子どものあこがれになってほしい。	
次年度へ向けての課題	教師が教科指導とともに生徒の進路についての悩みや相談に対する面談等の関わりを大切に、一人ひとりに対応した細やかな進路指導を行い、自己の目標の実現に向けて学習への意欲やモチベーションの維持に努める必要がある。	

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)

重点項目	特別活動	
重点課題	生徒の自主的・自律的な活動の充実	
	① 生徒主体の学校行事の運営	② 部活動の活性化
現 状	・学校行事の運営が、感染症対策のために制約される中で、生徒の自主性や主体性が損なわれないように、活動内容を工夫している。	・生徒は、学習と部活動を両立させようと努力している。
達成目標	・学校行事に主体的に参加し協力したことに、達成感を抱いた生徒の割合。	・部活動に積極的に取り組んだ生徒の割合。
	80%以上	80%以上
方 策	・生徒が積極的に学校行事に参加できるように、生徒会が主体となって、できる限り意見を聞いて活動内容を工夫する。	・部活動に対する生徒の意識を高め、活動時間を有効に活用する工夫を促すことによって、部活動の活性化を図る。
達成度	※アンケート結果より ・学校行事に積極的に参加した生徒の割合 1年：95% 2年：95% 3年：89%	※アンケート結果より ・部活動に積極的に取り組んだ生徒の割合 1年：95% 2年：91% 3年：84%
具体的な取組状況	・球技大会については、ありそドームを競技会場に加えて競技を分散させた。 ・体育大会については、競技内容及び座席配置、応援の形態を工夫した。 ・魚高祭については、飲食の場を設置しないなど、様々な感染予防対策を講じることで、観覧者数に制限を設けずに開催することができた。 ・通学路清掃については、清掃場所を学校敷地内の清掃に限定して実施した。	・定期的に部長を招集し、活動内容や活動環境についての指示を行った。 ・感染症対策については、活動方法や部室の利用方法などについて具体的に指示した。
評価	A	A
学校関係者の意見	・魚津高校の良い伝統を継承しながら、それを時代に合った形に発展させて欲しい。	・特になし。
次年度へ向けての課題	・企画、運営、実施、すべての段階で、より多くの生徒が参加できるようにしたい。	・より充実した活動ができるように、援助していきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

重点項目	その他	
重点課題	図書貸し出し冊数の増加	生徒保健委員会の活性化
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書習慣が身につけていない生徒がいる。</li> <li>学習や部活動に多くの時間を割く必要があり、図書館を利用したいと思っても来館できない生徒が少なからずいる。</li> <li>2学期以降に3年生を中心に小論文・面接のための資料探しや読書、また学習室として使用する機会が増える。</li> <li>教科の授業やHR、総合的な探究の時間等での閲覧室利用もあまり多くない。</li> <li>保護者対象の図書館開放を年数回実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動において、率先して活動を行う生徒が多い反面、取りかかりが遅く、指示待ちタイプの生徒も若干見られる。</li> <li>学校保健委員会の発表までの準備過程で、委員全員が揃う機会が少なく、共通認識に基づいた委員の自主性が発揮されにくい。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年の平均貸し出し冊数3冊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①保健委員が美化週間に関するアイデアを出し、実行する。1回/学期</li> <li>②学校保健委員会での発表の事前活動としてフィールドワーク、ポスターセッションを行う。</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次の図書館オリエンテーションで図書館利用を促す。</li> <li>生徒の興味・関心をとらえた企画、展示、広報活動を工夫する。また、校外図書選定等を実施し、より生徒の読みたい本をそろえる。</li> <li>小論文対策のレファレンス機能の充実を図る</li> <li>HR、総合的な探究の時間での活用を促す。</li> <li>保護者の図書館利用を促し、教職員に対しても図書資料に関する情報を発信する。また選書に関わってもらえる機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①美化週間中の清掃重点項目を生徒が考えまた放課後に、保健委員が教室を巡回し美化、整頓がなされているか点検する。</li> <li>②発表テーマについて、夏休みにフィールドワーク、魚高祭でポスターセッションを行い、発表の事前活動とする。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年12月31日現在の貸出冊数</li> <li><b>全学年平均 3.4冊/人</b></li> <li>1学年 6.6冊/人</li> <li>2学年 2.3冊/人</li> <li>3学年 1.2冊/人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①、②とも現時点で達成目標通りに実施できた。</li> <li>①1学期(6月中旬)と2学期(10月下旬)に実施した。※2学期終了時現在</li> <li>②7月にフィールドワーク、9月の魚高祭でポスターセッションを実施した。</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学年4月のオリエンテーションでは、本を2冊借りた後、返却ボックスは使わずに、自分で閲覧室に返却しに来て、もう一冊借りていくことを勧めた。また、1学年の朝読書の取り組み、授業での閲覧室の活用などの協力も得られた。</li> <li>新たに2学年へのオリエンテーション「情報を得るための本の読み方・選び方」をクラス毎に11月に行った。自分の進路に関わる情報が得られる新書などを借りて読むことを勧めた。</li> <li>12月を本校の読書強化月間とし、冬休みに読書をするよう、図書委員がクラスで呼びかけを行った。</li> <li>本を気軽に手に取ることができるよう、1、2年の教室近くのホールで「出張魚高図書館」を行ったり、貸出冊数をクラス対抗として表彰したりした。</li> <li>小論文対策として、分野別の新書のリストを作成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①(1)生徒に美化週間を周知徹底させることを重点的に行った。保健委員が担任に協力を仰いで生徒への連絡を工夫した。また、全校放送では、放送内容に工夫を凝らしたり、清掃中の音楽の選曲も保健委員が行った。(2)美化週間後は、保健委員会で振り返りを行い、次回への改善とした。</li> <li>②フィールドワークでは、河内歯科へ出向き、「歯と口の健康」について行った全校生徒へのアンケート結果を基に、院長より問題点について説明を受けた。魚高祭ではポスターセッションを行い、調査研究内容を来場者に発表した。発表では、クイズや実験にも参加してもらするなど興味を持ってもらえる工夫をした。12月の学校保健委員会で最終的な発表を行った。</li> </ul>
評価	B	A
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生という今しかない時間に読書をさせるための新しい取り組みがなされていた。</li> </ul>	特になし
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたって読書の習慣づけが身につくための働きかけを工夫したい。</li> <li>資料としての本の活用を推進したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと多くの生徒に学校保健委員会に参加してもらうための策を考えたい。</li> <li>学校保健委員会での発表を全校生徒に向けて行う機会を設けたい。</li> </ul>

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)